

漢字の多い書物に読みなれて、小学校に進んでかなばかりの書物に触れた時、かえって子供はとまどうのではないか。

確かに、石井方式で学習した幼児は、「かなばかりの本は読みにくくて、読む気がしない。」と言います。漫画などには目もくれず、本格的な書物に取り組む子供が多くいます。

その点では、かわいそうな気がしますが、しかし、かなしか読めないでかなばかりの本を読む子供に比べたら、漢字の多い書物を読み慣れていてそういう本を読む子供のほうが、ずっと有利だということができます。

私たちは、かなばかりの電報文を読む時、頭の中で、これを知っている漢字に置き換えて読みます。漢字に置き換えることができない時は、おやっと思えます。私たちは、かなばかりの文を読んでも、漢字を知っているために、いづらか救われているのです。

ですから、漢字を学習し、漢字の多い書物に読み慣れた子供は、小学校でかなばかりの文を読ませられても、文意を読み取るのに、かなしか知らない子供よりは、すぐれた能力を発揮するはずです。



かなばかりの文も頭の中で漢字におきかえて読む